

生活科学習指導案 第1学年 みはらしょう こうりゅうかい

日時：11月21日（金）第2校時 場所：下校庭

授業者：三原市立三原小学校 渡邊真衣 ○○園 ○○○○ ○○園 ○○○○

三原小1年1組28名（児童） ○○園○○組○名（年長児） ○○園○○組○名（年長児）

本単元で生かしたい身近な生活に関わる見方・考え方

互いのよさに気づき、相手を思いやる気持ちを持ち、共に活動することの楽しさを味わうこと。

児童観

本学級の児童は、明るく素直で、自分の考えを主張することができる。しかし、前回の交流会では年長児との交流を楽しみにしている反面、何を話せばよいのか分からず、会話が成り立ちにくい面もあった。また、1年生同士の間わりでは、折り合いをつけることや、相手を思い遣った言動をすることに課題が見られる。

指導観

本単元では、児童が年長児の気持ちを想像し、思いが伝わる言葉や方法を選択できるよう支援する。準備過程では、他者と自分の意見の折り合いのつけ方を学べるよう、相手の意見を尊重する言動を価値付ける。交流を通して、他者と関わる心地よさや自己の成長を実感させ、進んで触れ合おうとする態度を育みたい。

単元の目標

年長児との関わりを深める活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、年長児や1年生同士の間わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようすることができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 相手のことや相手が伝えたいことを理解できるよさや楽しさが分かっている。 ② 相手や目的に応じて、様々な間わり方があることに気付いている。	① これまでの体験を基に、相手のことを思い浮かべながら、間わり方を工夫している。	① 年長児や1年生同士の間わることのよさや楽しさを実感し、多様な人々との間わりを自ら築いていこうとしている。

【園・所】

年長児の姿

初めての交流会では、緊張気味な子や楽しみにしていた子など様々だったが、ペアの1年生が優しく名前を呼んだり、隣に座ったり、一緒に遊んだりすることで、安心して楽しむことができた。帰園してからも、「楽しかった」「やさしかったね」「また、行きたい」など、素直な思いを言葉で表現していた。園・所に、小学校の教員が訪問した時は、嬉しそうに自ら関わる姿も見られた。

園・所での取組

前回の交流会の話をしたり、一緒に撮った写真を保育室に飾ったりして、ペアの1年生に親しみが持てるようにしている。また、第2回交流会へのわくわく感や期待感が膨らむように話をしている。

交流会のねらいと内容

- ◎1年生との交流会を通して、学校の雰囲気や様子を知り、1年生になることを楽しみにする。
 - ・1年生との遊びに興味や関心をもって、ペアの1年生とふれあいながら、ルールを理解して一緒に遊ぶ。
 - ・自分の思いを伝えながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
 - ・ふりかえりの中で、1年生と対話することを通して、自分の気持ちを言葉で表現する。

【これまでの経緯・今後の予定】

第1回交流会を6月に実施。事前に担当教諭等で幼保小連絡連携協議会を行い、ペアやグループを作成し、年長児、児童へのアプローチや、交流会の内容を協議した。夏休みには園・所の年長児クラスへ1年生担任が訪問し、1日を一緒に過ごし、第2回交流会でやってみたい遊びのインタビューを行った。10月には第2回交流会の事前協議を行い、11月に第3回交流会へ向けた協議会を行う。

【本質的な問い】多様な他者と関わり合いながら過ごすには、どうしたらよいだろうか。

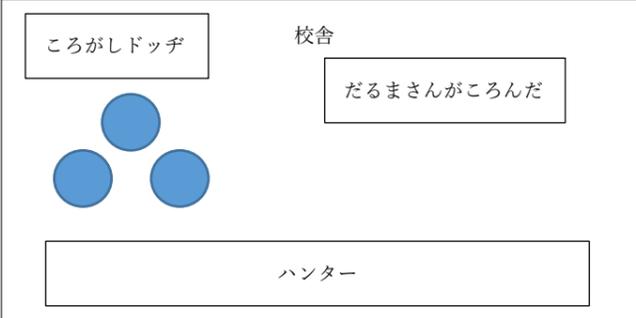
【単元を貫く問い】年長さんと一緒に楽しい時間を過ごすには、どうしたらよいだろうか。

	時数	主な学習内容	R80の例 (R80:接続詞で2文をつなぎ、80字以内で書いた振り返り)	評価規準
課題の設定	1	<p>どんな交流会にしようかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回の交流会で年長児と一緒にやってみたい遊びを考える。案をたくさん出すことで交流会への期待感を持つ。 	<p>鬼ごっこをして遊びたいと思った。なぜなら、年長さんにも分かりやすい遊びだし、一緒にしたら楽しいから。</p>	知① 思①
情報の収集 整理・分析	2 ・ 3	<p>一緒に楽しむには？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児がどんな遊びをしたいのかを知る。また、年長児の先生からどんな風に工夫をすると一緒にできる遊びになるのかアドバイスをもらい、交流会での遊びを決めていく。 ・どの遊びなら工夫して年長児と関わり合えるのか考える。本当に年長児とできるかどうか、遊びを試しにやってみる。「難しくないか、危険ではないか、時間がかかりすぎないか」という視点で確かめる。 	<p>鬼ごっこだったら、年長さんと一緒にできると思った。なぜなら、ペアの子と手をつないで一緒に追いかけて逃げたりできるから。</p> <p>サッカーは、交流会ではできないと思った。なぜなら、手をつないでボールを蹴るのは難しいし、走る速さが違うと危ないから。</p>	知② 思①
	4	<p>どの遊びをしようかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で確かめた遊びから、どの遊びをするか決める。また、年長児と一緒に遊ぶことを想定し、どの順番で遊びをするかを考える。 	<p>交流会では、しっぽとりを頑張りたい。なぜなら、一緒に走るペアの子のしっぽがとられないように守ってあげたいし、他の人のしっぽも取らせてあげたいから。</p>	思①
まとめ・表現	5 ↓ 9	<p>どんな役割分担にする？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの紹介の仕方を話し合う。司会者や遊びを紹介する人を決め、練習をする。 <p>安全に楽しくできるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会の流れに沿って、練習を行う。改善点や気をつけることを毎回振り返り、交流会に向けてブラッシュアップする。 	<p>私は、しっぽとりを紹介することになった。だから、年長さんにやり方がちゃんと伝わる声の大きさに気をつけて頑張りたい。</p> <p>しっぽとりの遊びが危ないと思ったから他の遊びがしたい。なぜなら、速さが違うと追いつけなくて危なかったもので、同じ速さで走れるものがないと思ったから。</p>	知② 主①
活用	10 ・ 11	<p>年長さんは楽しんでくれるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長さんにもっと小学校を楽しんでもらうために、目的をもう一度確認し、交流会に臨む。 	<p>今日の本番は、前の交流会よりも楽しかった。なぜなら、年長さんと遊びを一緒に選んだり、たくさん手をつないで遊んだりして、前よりもっと仲良しになれたと思うから。</p>	思① 主①
振り返り	12	<p>次はどんな交流会にしたい？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回の交流会を振り返り、反省を行う。第3回の交流会では、より年長さんが小学校でしたいことにチャレンジできる内容にしていくことを伝え、次回への見通しをもたせる。 	<p>次の交流会では、学校の中を案内してあげたい。なぜなら、幼稚園にはない部屋がたくさんあるし、学校探検をすると年長さんも楽しいと思うから。</p>	知①

本時のねらい・目標

(小学校) 年長児や先生の意見を踏まえて関わり方を工夫しながら遊びを考え、進んで触れ合い交流しようとする事ができる。

(園・所) ペアの小学生との再会を喜び、自分の思いを伝えながら、一緒に楽しく遊ぶことができる。

	●年長児の活動 ◇保育者の支援	活動内容	○教師の支援・指導 ☆評価規準 (評価方法)
導入	<p>●一緒に座って話を聞く。</p> <p>◇落ち着いて話が聞けるように見守り、恥ずかしそうにしている子や戸惑っている子に寄り添いながら、安心できるように声をかける。</p>	<p>1. はじめの会をする。【9:30 集合完了】</p> <p>司会：これから第2回交流会をはじめます。</p> <p>2. 課題を設定する。</p> <p>㊦こうりゅうかいを、みんなでたのしもう！</p>	<p>○児童に司会進行を務めさせることで、自分たちで楽しい交流会にするという気持ちを持つことができるようにする。</p> <p>○事前に設定した課題を確認することで、振り返りの視点を意識して交流会に臨むことができるようにする。</p>
展開	<p>●やきいもじゃんけんをする。</p> <p>●お手本になりたい子は、みんなの前に出て一緒に楽しむ。</p> <p>●◇お手本の手遊びをする。(1回) ↓ ペアで手遊びをする。(2回)</p> <p>●1年生の話を聞き、一緒に遊ぶ。</p> <p>◇ルールが分からなかったり、遊びに入れない子には、分かりやすい言葉で伝えたり、保育者と一緒に遊んだりする。</p> <p>◇一緒に遊ぶ中で思いが行き違った際は、お互いの思いを聞き合えるようにし、できるだけ子どもたちで解決できるように見守る。難しい際には、一緒に解決方法を考えたり、まわりの子に求めたりしながら仲介する。</p>	<p>3. 遊びをする。</p> <p>・保育者と一緒に手遊びをする (年長児) やきいもじゃんけん</p> <p>1. 係の児童が遊びの説明をする。 ①だるまさんがころんだ (3チームまで) ②ころがしドッチ (3チームまで) ③ハンター (2チームまで)</p> <p>2. どの遊びをするのかグループごとに話し合いをして決める。</p> 	<p>○保育者や年長児が交流会の遊びに沿ったアイスブレイクをすることで、自然な流れで遊びに入ることができるようにする。</p> <p>○遊びのお手本を年長児にもしてもらおうことで、年長児も1年生も緊張をほぐせるようにする。</p> <p>○できる遊びを3つの内から1つに絞らせることで、年長児と1年生が話し合いながら一緒に遊びを決めて楽しむことができるようにする。</p> <p>☆【思考・判断・表現】 年長児や先生の意見を踏まえて関わり方を工夫しながら遊びを考えている。(行動観察・交流会後のR80)</p> <p>○遊びの場が限定されているので、希望の遊びが重複したときに、「こっちの遊びはどう？」と聞いたり、「こんな遊びもあるよ」と提案したりすることで、話し合いながら解決できるようにする。</p> <p>☆【主体的に学習に取り組む態度】 年長児と進んで触れ合い交流しようとしている。(行動観察・交流会後のR80)</p>
まとめ	<p>●ペアで座り、自分の思いを小学生に伝え、思いを受け止めてもらう。</p> <p>◇うまく思いが表現できない時は、本児の思いを汲み取り、少しでも思いが表現できるよう寄り添う。</p> <p>●次回への期待感をもつ。</p> <p>◇次回の交流会にも期待がもてるよう声掛けをする。</p>	<p>4. 終わりの会をする。</p> <p>1. グループごとに今日した遊びと、感想を伝え合う。</p> <p>2. グループでその場に立って、代表者がグループ内での振り返りを伝える。</p> <p>5. さようならをする。【10:30 解散】</p> <p>司会：これで第2回交流会を終わります。</p>	<p>○発表する前にグループで楽しかったかどうか振り返りをする中で、お互いにどんなことが楽しかったのか(もしくは困ったのか)具体的に話し合うことができるようにする。</p> <p>○グループでの振り返りの際に、1年生が「どうしてそう思ったの?」「例えばどんなところがそう思ったの?」等、年長児に質問することで、具体的に感想を言うことができるようにする。</p> <p>○ペアの年長児と握手をしたり、手を振ってお見送りをしたりすることで、次の交流会も楽しみたいという思いを持たせる。</p>